

住民主体のまちづくりを

みよしまち育て塾

一人ひとりがまちづくりの主体として、地域でのまちづくりを担う人材を育てようとして、みよしまち育て塾を年6回開催予定。その第1回目が5月22日、教育学習センターで開催されました。参加した50人は、講師の延藤安弘さんの「これからは地域の住民が主体となった、まちづくりの取り組みが重要になると思います」との話を聴き、その後、グループで自分たちのまちの良い点、今後の目標などを熱心に討論しました。



自分たちで身を守ろう

防犯用安全笛贈呈式

町は、子どもたちに犯罪から身を守る一つの手段として役立ててもらおうと、防犯用の安全笛が町内すべての小中学校と保育園、幼稚園の子どもたちに配布しました。5月27日には中部小学校で、久野知英町長から児童へ安全笛の贈呈が行われ、6年生の児童代表が試し吹きを実施。甲高い笛の音が体育館に響き渡りました。児童の一人は「いつも安全笛を持ち歩き、いざというときは自分たちの身を守りたいです」と話していました。



安全確認の大切さを実感

高齢者交通安全実践教室

高齢者の交通事故を防ごうと5月30日、三好自動車学校で高齢者交通安全実践教室が行われました。参加した33人は、講話とビデオによる講習の後、教習コースに移動し、運転技能指導を受講。基本的な運転方法や急ブレーキなどを実践し、運転時の注意点をあらためて見直していました。上ヶ池の三原秀樹さんは「コースでもほかの車が飛び出すこともあるので、運転中の安全確認の大切さを実感しました」と話していました。



常に防災意識を持つ

水防訓練

災害時の被害軽減と日ごろの防災意識の高揚を図るため5月30日、西一色地内の境川河川敷で、水防訓練が行われました。「境川左岸で決壊の恐れあり」との想定のもと、消防団や自主防災会など12団体から333人が参加。人海戦術の中で最も効果的とされる積み土のう訓練などに、協力しながら真剣に取り組みました。訓練後、久野知英町長は「今日の訓練を機に、常に防災への高い意識を持っていきましょう」と呼び掛けました。



誰でも簡単に楽しめる

春季ディスクゴルフ交流会

誰でも簡単にできるスポーツ、ディスクゴルフ。その楽しさを体験してもらおうと5月29日、保田ヶ池公園ディスクゴルフコースで、交流会が開催されました。今年で7回目となるこの会には、子どもからお年寄りまで、47人が参加。ルール説明の後12グループに分かれ、全6ホールを2周して得点を競いました。緑丘小学校4年の牛丸みかさんは「結果はまあまあ。みんながやる、とても楽しいところが好きです」と満足そうでした。



ふれあいそして文化の輪へ

春の文化展

より多くの皆さんに芸術文化に親しみ関心をもってもらうと5月27日から30日までの4日間「ふれあいそして文化の輪へ」をテーマに、春の文化展がサンアートで開かれました。今年は17団体がおよそ500点の作品を展示。29日の芸能発表では、13団体が歌謡や民謡などいろいろな活動成果を披露し、訪れた4,000人の人々を魅了しました。見物に訪れた女性は「皆さんとても上手に作品を作られましたね」と感心していました。

